

中津川市上下水道だより

令和3年度決算報告について

令和3年度水道事業、下水道事業の決算について報告します。主要事業は次の通りです。

水道事業

- 配水管の耐震化
安全な水を安定して供給するため、老朽管更新工事、及び道路改良工事に併せて耐震化を行いました。
- リニア中央新幹線関連受託事業
令和6年10月までに、リニア関連施設へ給水を行うためのポンプ場・配水池・配水管等の設計を行いました。
- 中津川駅周辺管路更新事業
中津川駅周辺における老朽管更新工事(R4~R6年度)を、設計・施工一括発注方式で実施するための基本協定を締結しました。

下水道事業

- 坂本処理区の下水道整備
リニア開業に向けて、坂本地区の下水道整備工事を行いました。
中核工業団地内の既設排水管の改築更新工事を行いました。
- 中津川処理区の下水道整備
青木斧戸線道路新設に併せ、下水道管渠布設工事を行いました。
- 下水道施設長寿命化対策事業
ストックマネジメント計画の策定のため、施設の調査・評価を行いました。
- 処理施設の機械設備更新事業

経営状況、収支の詳細は次の通りです(次のページに続きます)。

上段…水道事業 下段…下水道事業

	経営指標	R2	R3	前年比	説明
A	経常収支比率 【算出式】 (経常収益)/(経常費用)*100	104.12%	100.54%	▲3.58%	給水収益/下水使用料収入や一般会計繰入金等の収益で、維持管理費や支払利息等の費用を、どの程度賄えているかを表す指標です。
		111.21%	103.85%	▲7.36%	
	料金回収率 (給水収益)/(費用合計一長期前受金戻入)*100	99.33%	95.74%	▲3.59%	給水に係る費用が、どの程度給水収益で賄えているかを表す指標です。
	経費回収率 (下水道使用料)/(汚水処理費(公費負担分を除く))*100	110.75%	107.81%	▲2.94%	使用料で回収すべき経費を、どの程度使用料で賄えているかを表す指標です。
B	有形固定資産減価償却率 (有形固定資産減価償却累計額)/(有形固定資産のうち償却対象資産の帳簿原価)*100	38.72%	40.74%	2.02%	有形固定資産のうち、償却対象資産の減価償却が、どの程度進んでいるかを表す指標です。
		4.01%	8.01%	4.00%	
	管路経年化率 (法定耐用年数を経過した管路延長)/(管路延長)*100	18.30%	20.40%	2.10%	法定耐用年数を超えた管路延長の割合を表す指標です。
	管渠老朽化率 (法定耐用年数を経過した管渠延長)/(下水道布設延長)*100	0.00%	0.00%	0.00%	法定耐用年数を超えた管渠延長の割合を表す指標です。
	管路更新率 (当該年度に更新した管路延長)/(管路延長)*100	0.84%	0.56%	▲0.28%	当該年度に更新した管路延長の割合を表す指標です。

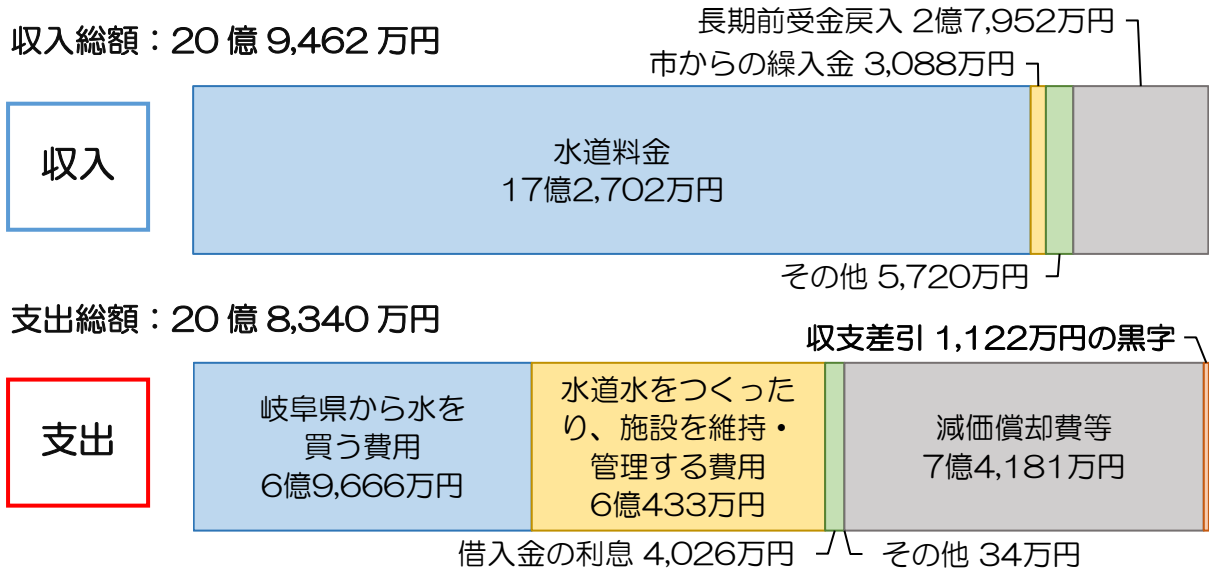
OAは経営の健全性、料金水準の妥当性を表しており、100%以上が望ましいとされます。

OBは施設の老朽化と更新率を表します(下水道はまだ管渠の法定耐用年数が到来していません)。

水道事業

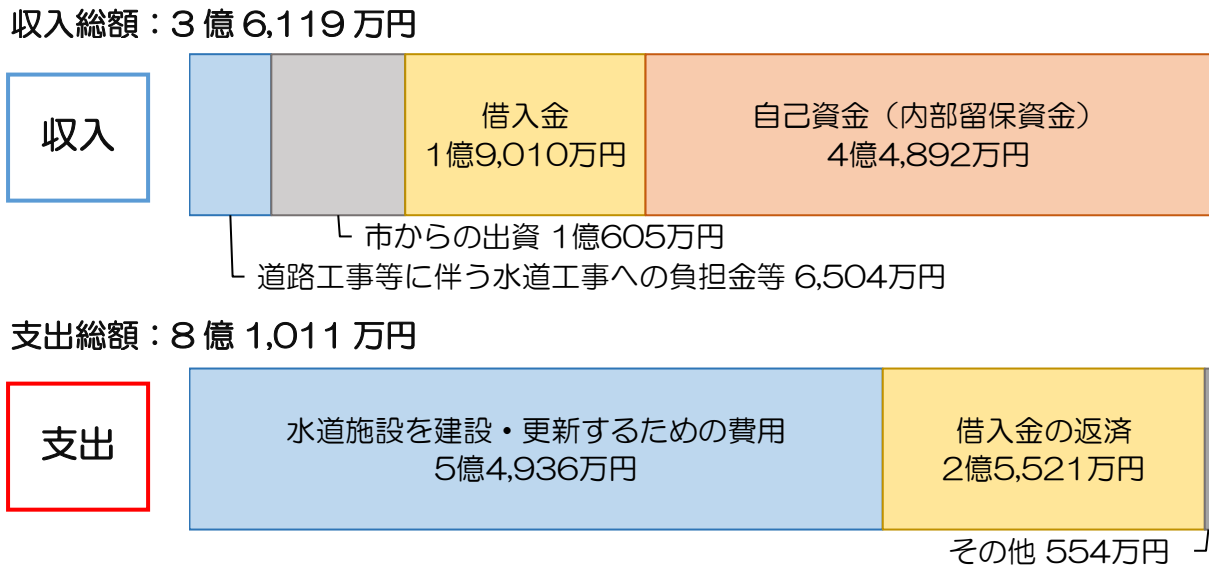
【☆収益的収支☆】

収益的収支とは…経営活動に伴い発生する収支を表します。



【★資本的収支★】

資本的収支とは…施設・設備を整備するための収支を表します。



水道事業については、令和3年度収支として1,122万円の純利益を計上し、黒字決算を結ぶことができました。経常収支比率としても、健全経営の水準である100%を上回っていますが、料金水準の妥当性を示す料金回収率については100%を下回った状態が続いており、事業に必要な費用を給水収益以外の収入で賄っている状態です。

〈減価償却費と長期前受金戻入〉

減価償却費は、長期間にわたって使用される固定資産の取得に要した支出を、その資産が使用できる期間にわたって費用を配分したものです。

例えば、5千万円で管路を取得して50年間使用する場合、取得した翌年から50年間、年100万円を費用として計上します。

長期前受金戻入は、減価償却費の対の考え方です。固定資産の取得のための収入源に補助金などがあつた場合は、収益も同じ期間で配分します。

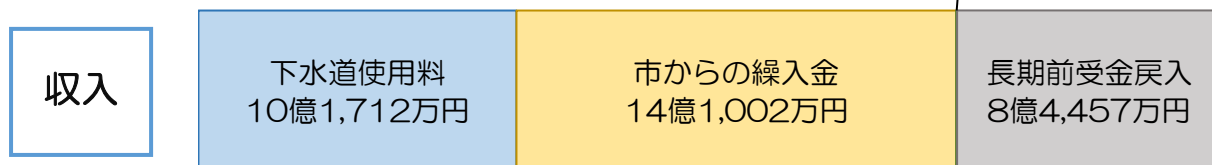
例えば、5千万円のうち1千万円の補助があつた場合、年20万円を50年間収益として計上します。

○整備した年だけが負担増とならず、施設・設備を利用する世代間で均等に負担することができます。
○また、残っている費用を現在の資産の価値として、施設の老朽化を調べる指標にもなります。

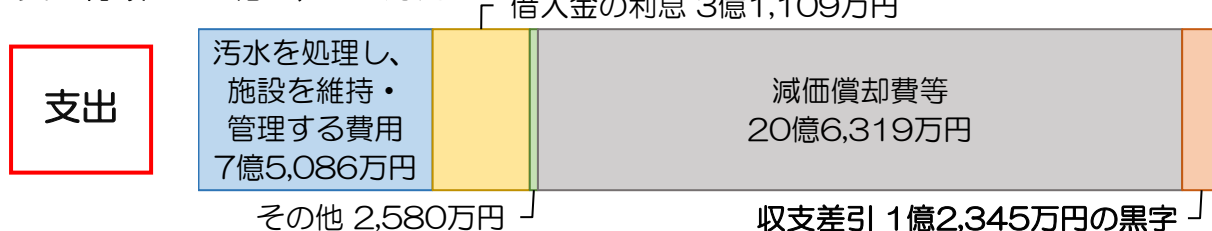
下水道事業

【☆収益的収支☆】

収入総額：32億7,439万円

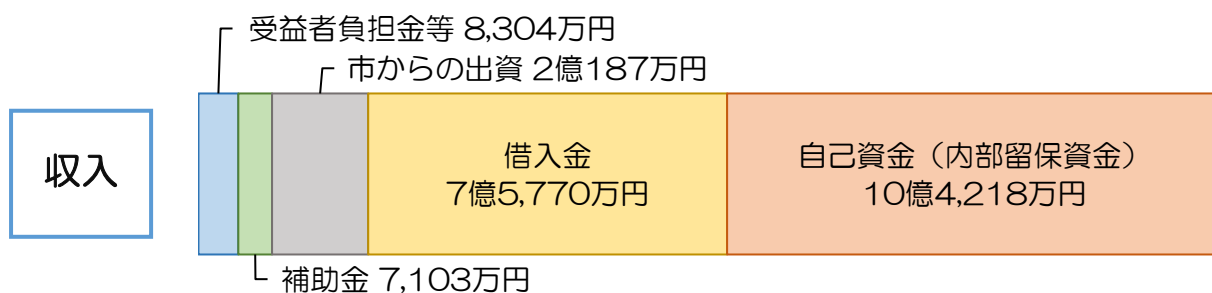


支出総額：31億5,094万円

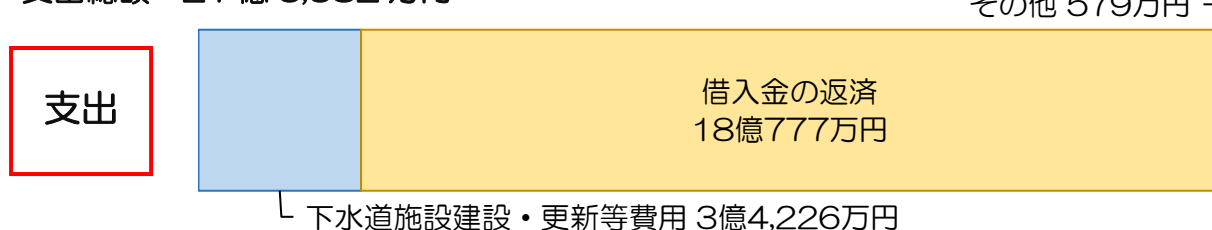


【★資本的収支★】

収入総額：11億1,364万円



支出総額：21億5,582万円



下水道事業についても、令和3年度の収支は1億2,345万円の純利益を計上し、黒字決算を結ぶことができました。経常収支比率、経費回収率の両指標について100%の水準を維持できている半面、収入の減少、費用の増加傾向がみられ、ポイントとしては昨年度から減少しています。今後の借入金の返済、施設更新に備え、収入源の維持、経費削減に努める必要があります。

水道事業、下水道事業とも、今後も徐々に施設設備、管路・管渠の老朽化が進んでいくことが想定されます。一方で、一度に着手できる工事には限りがあるため、更新率はある程度の伸び幅にとどまります。そのため、耐用年数を超えても健全に使える資産を把握して、優先順位をつけるといった計画的な施設更新が必要となります。策定した計画を基に、世代間の負担が平等となるよう費用の平準化を図りながら、更新を実施していきます。

以上が令和3年度の決算状況です。令和2年度から続く新型コロナウイルス感染症の流行拡大による経営状況への影響は、大きくは見られなかったものの、将来にわたり長期的な影響が懸念されます。引き続き経営状況を分析し、経営の健全性の確保に努めてまいります。

漏水情報提供のお礼

令和4年6月23日から市民安全情報ネットワークメール、広報なかつがわなどにより、市民の皆様には水道の漏水が疑われる場所の情報提供をお願いしましたところ、9月30日現在で通報件数84件、うち55件の漏水を発見、修繕することができました。ご協力をいただきありがとうございました。

大切な水を無駄にしないため、今後も漏水が疑われる場合は水道課までご連絡をお願いします。

〈情報提供件数〉

日付	通報件数	漏水件数	備考
〈参考〉6月1日から6月22日	16件	16件	情報提供依頼前
6月23日から7月24日	30件	23件	市民安全情報ネットワークメール配信後
7月25日から8月28日	34件	22件	広報なかつがわへ掲載後
8月29日から9月30日	20件	10件	各地域の無線放送後
合計	84件	55件	

冬季の水道管凍結にご注意ください

中津川市でも例年12月下旬ころから水道管が凍結し、宅内で漏水が起こるなどの被害が報告されます。目安としては、気温が氷点下4℃以下になると水道管が凍結しやすくなります。屋外の日陰、風当たりの強い、水道管が露出している場所は特に注意が必要です。

宅地内の水道管、メーターはお客様で管理していただくものです。漏水対応にかかる費用はお客様負担となりますので、早めに水道管の水抜きや保温といった凍結予防をし、こまめに点検をして冬季に備えましょう。

〈屋外水栓やメーターの保温〉

- ① むき出しになっている水道管は、保温材や保温ヒーターで保温してください。
- ② メーターボックスの蓋（ふた）が金属製の場合は、発泡スチロールなどの保温材※をボックス内に入れると有効です。

※検針員による毎月の検針業務に支障がないように設置してください。

